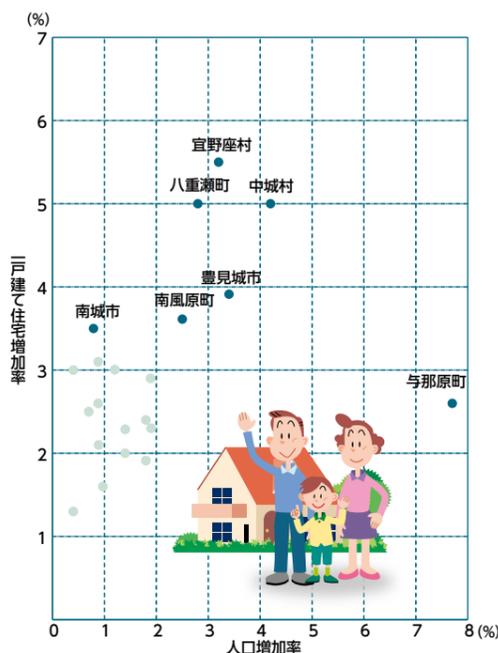


### 【沖縄県の人口増加率】

(2012年/2010年)



注：一戸建て住宅増加率は、簡便的に2010年の持ち家ストック数に対する新設持家着工戸数累計に対する比率とした。

# 1.2%

沖縄県は日本で人口増加率もっとも高い地域だ。当然、人が増えれば、住宅も必要になる。

沖縄県「人口移動報告年報」、および総務省「住宅着工統計」を基に、県内市町村の人口増加率と一戸建て住宅の増加率との関係のみてみた。

沖縄県の2012年と2010年を比較した人口増加率は1.2%。全市町村のうち、最も人口増加率が高いのは与那原町で7.7%。以下、中城村、豊見城市と続く。これらの地域では、東浜、南上原、豊崎など、人気の住宅地を抱えている。ただし、宜野座村や八重瀬町に比べ、人口増加の割に一戸建て住宅の建設は緩やかだ。地価の高さも関係し、アパートやマンション建設も盛んとなっているようだ。

全国的に人口減少による影響が懸念されるなか、沖縄では今なお魅力ある街が次々に形成されているのは喜ばしいことだろう。

(海邦総研/中山禎)

### 【自市内就業者率】

(2010年)

市	自市内就業者率 (%)	自市内就業者数
1位 宮古島市	99.4	23,215
2位 石垣市	97.7	20,766
3位 名護市	83.5	18,746
4位 那覇市	72.0	87,482
5位 うるま市	54.8	22,530
6位 糸満市	54.6	12,860
7位 沖縄市	52.1	24,815
8位 浦添市	45.7	20,376
9位 南城市	43.3	7,430
10位 宜野湾市	37.3	130,31
11位 豊見城市	32.6	7,764
11市平均	61.5	259,015

# 61.5%

毎朝の通勤。渋滞ラッシュに巻き込まれ通勤途中にイライラしている方も多いのでは。

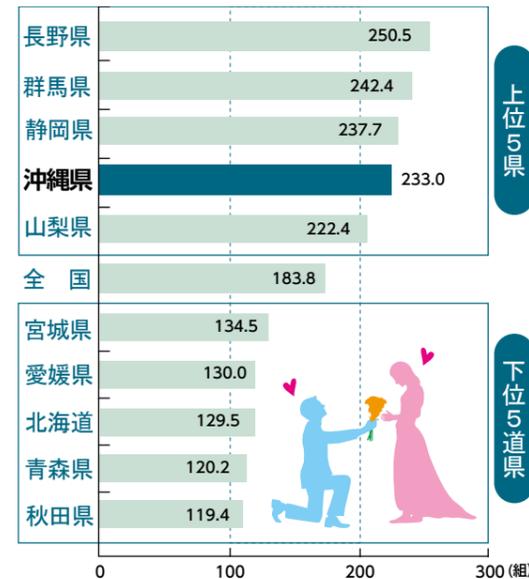
総務省「2010年国勢調査」によると県内11市の就業者のうち自分の住んでいる市内で働いているのは259,015人。割合で表すと61.5%となる。宮古島市、石垣市はもちろん100%に近いが、本島内で最も自市内就業者率が高かったのは名護市で83.5%。那覇市の72.0%が続く。

本島北部地域では自分の住んでいる市内で働いている人が多い。一方、中南部地域の比較的多くの住民は、住んでいる市以外で働いている。特に豊見城市、宜野湾市は30%台だ。中南部地域からは都市部の那覇地域まで通勤している人が多いのではないだろうか。とはいえ、長距離通勤は、やはり面倒。県土の均衡ある発展のためにも各地域内においてさらなる産業の発展を期待したい。

(海邦総研/島田尚徳)

### 【年齢差20歳以上の夫婦数】

(2011年・10万世帯当たり)



# 233組

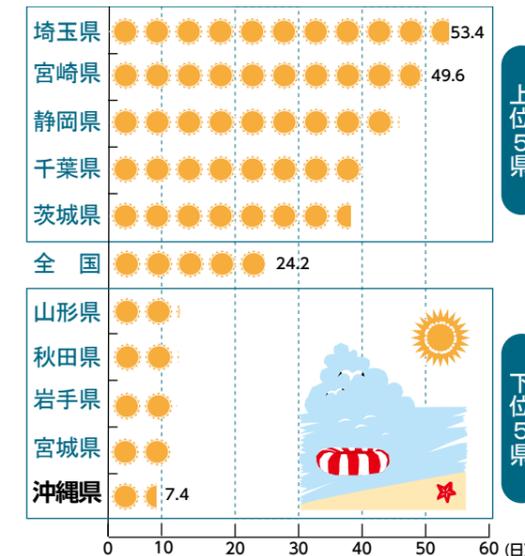
2008年頃から火がついた“婚活”ブーム。“街コン”など出会いイベントも盛んだが、結婚に対する意識は男女でかなり違うようだ。婚活にも異性にも消極的という“草食系男子”が増えている一方、女性は早期の結婚願望が強く、相手は「収入面や包容力など“頼れる年上”」を選ぶ傾向にあるとか。20歳以上年の離れた「歳の差婚」も近頃は増えている。

総務省「2011年国勢調査」によると、県内の年齢差20歳以上の夫婦数は「妻が年上」は80組、「夫が年上」は1,132組の合計1,212組。10万世帯当たりでは233組と、全国第4位だ。ちなみに「妻が年上」の夫婦は15.4組で、全国第1位。離婚率の高い沖縄、「二度目は頼れる年上を」という傾向が高いのか、それとも、“頼れる年上”を感じさせるパワフルな沖縄の女性が「歳の差婚」の多い一番の要因かも…?

(海邦総研/屋比久有紀)

### 【年間快晴日数】

(2008～2012年平均)



# 7.4日

「燦々と輝く太陽・青い空」“南国沖縄”のイメージから晴れの日が多いと思いきや、年間快晴日数は少ないようだ。

気象庁「気象統計情報」を基に、2008年から2012年の5年間の年平均快晴日数をみると、全国平均は24.2日。それに対し、沖縄県内は7.4日と極端に少なく、全国最下位の水準だ。最も多い埼玉県の7分の1弱に過ぎない。

空に占める雲の量が15%以下の日を快晴日とみるようだ。海に囲まれ、湿度も高い沖縄では雲ができやすく、快晴が少ないのだろう。晴れた夏の日に入道雲が広がり、突然の“カタブイ”に出会うことも多いので注意が必要だ。

日本一早い梅雨入りをした沖縄では、「糸満ハーレーの鉦が鳴ると梅雨が明ける」といわれている。数少ない快晴日の多い本格的な夏到来。暑い日に備え、今は“くんち”をつける時期かも?

(海邦総研/安田ひろみ)